

第2四半期決算説明会

2009年3月期

株式会社シンプレクス・テクノロジー
(東証一部:4340)

www.simplex-tech.co.jp

進行

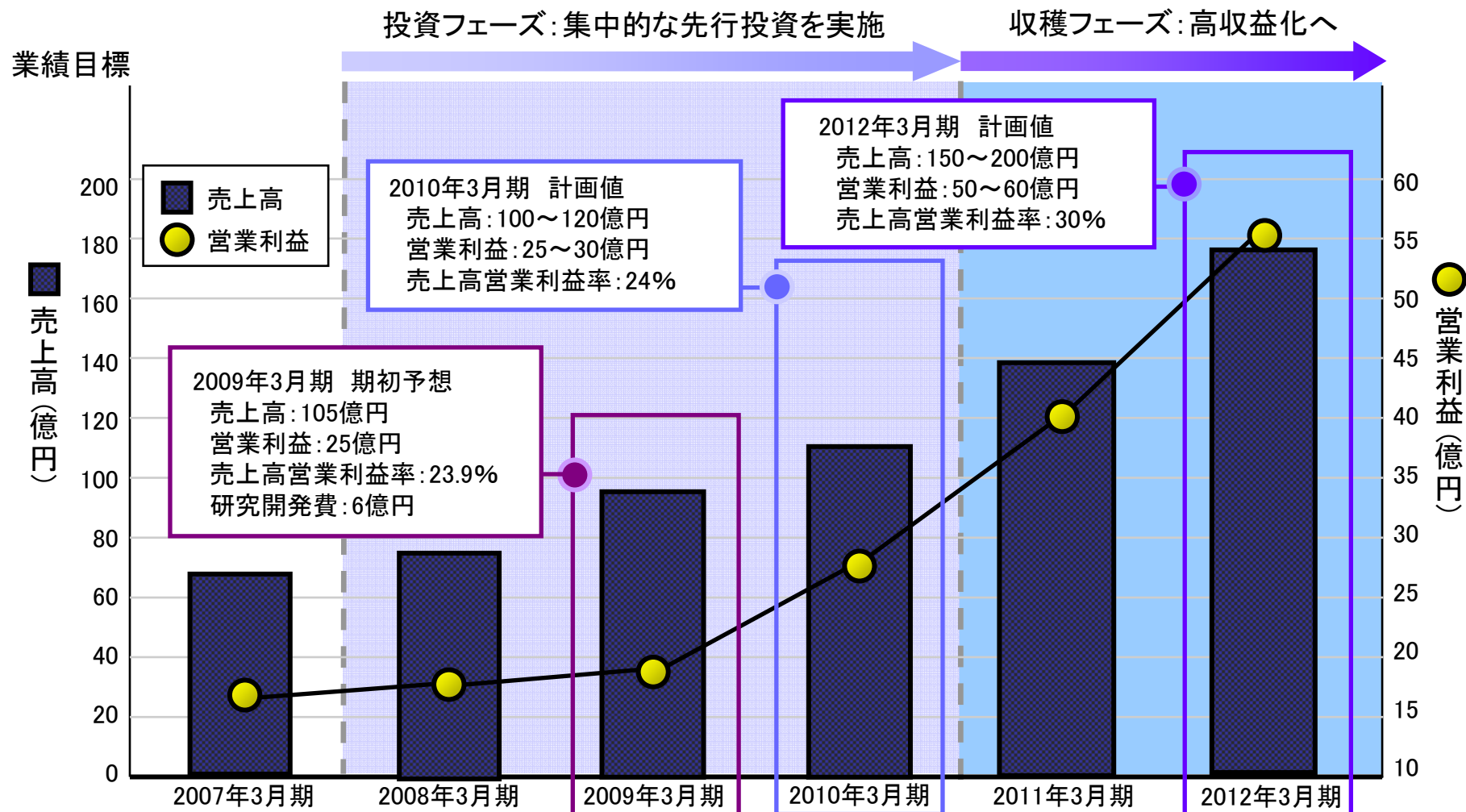
上期決算概要

通期決算見通し

第二次中期事業計画 進捗状況

上期決算概要

第二次中期事業計画概要



※グラフはすべて計画段階(2006年11月時点)の数値で表示しています。
 ※2010年3月期、2012年3月期のグラフはすべて業績目標の中間値で表示しています。
 ※UMS事業向け先行投資として、5年間で50億円程度の投資を実施予定です。
 ※投資コストは各会計年度で費用化することを前提として計上しています。

2009年3月期 上期決算サマリ



2010年3月期の業績目標(売上高100～120億円、営業利益25～30億円)下限値の1年前倒しに向けて順調なスタートをきり、上方修正を発表(10月15日)

売上高	大幅に伸びる
売上総利益率	前年同期は上振れたが、ほぼ通常通りに戻る
販管費内研究開発費	UMS事業に対し、計画値を上回る先行投資を実施
営業利益	UMS事業に対する先行投資の影響を受けて、売上の伸びと比べて利益の伸びが小さくなる
受注残高	過去最高を記録

2009年3月期 第2四半期決算実績(連結)

単位:百万円	2008年3月期上期実績	2009年3月期上期実績	増減	前期比
売上高	3,437	5,401	1,964	57.2%
売上総利益(率)	1,496 (43.5%)	2,284 (42.3%)	787	52.6%
販管費(率)	706 (20.6%)	1,323 (24.5%)	616	87.3%
内 研究開発費(率)	166 (4.8%)	494 (9.1%)	327	197.4%
営業利益(率)	789 (23.0%)	960 (17.8%)	170	21.6%
経常利益(率)	795 (23.1%)	914 (16.9%)	119	15.0%
四半期純利益	465	527	62	13.5%
従業員数:期中平均	194	232	38	19.5%

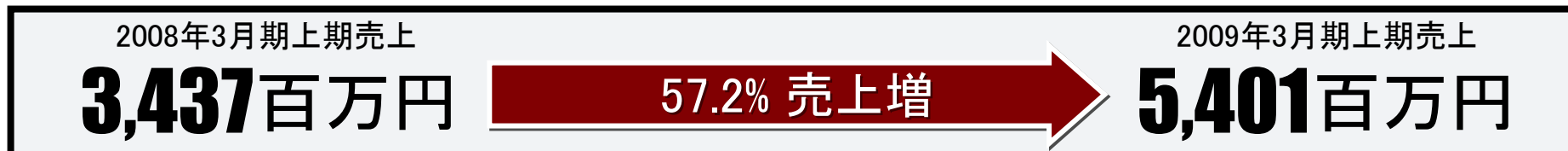


売上高 前年同期比 57.2%増
 期初予想(42億円)を26.5%上回って大きく上ブレをした



営業利益 前年同期比 21.6%増
 UMS事業に対し、計画値を上回る先行投資を実施(計画比:2.2億円増)したため、
 売上の伸びと比べて利益の伸びが小さくなる

売上高の増減要因：事業セグメント別



単位：百万円	2008年3月期上期 売上(構成比)	2009年3月期上期 売上(構成比)	前期比 増減(増減率)
システム・インテグレーション(SI)	1,719 (50.0%)	2,047 (37.9%)	327 (19.1%)
保守	628 (18.3%)	783 (14.5%)	155 (24.7%)
UMS(導入)	143 (4.2%)	1,139 (21.1%)	996 (696.7%)
UMS(サービス)	486 (14.2%)	937 (17.4%)	450 (92.7%)
その他(物販など)	459 (13.4%)	493 (9.1%)	34 (7.5%)



期初時点ではUMS(導入)でエンジニアリソースがとられるため微減の見通しであったが、想定以上に売上が伸びる



UMS(導入)はSPRINT導入案件を中心に大幅に伸びる
大証FX(仮称)導入案件については要件定義～設計フェーズ分を当上期に計上



SPRINTを中心にUMS(サービス)が前期比倍増

※FXとは、外国為替証拠金取引を指します。

※SPRINT(スプリント)は、当社が金融機関向けに展開する個人投資家向けインターネット取引システムの名称です。

売上高の増減要因：分野別



単位：百万円	2008年3月期上期 売上(構成比)	2009年3月期上期 売上(構成比)	前期比 増減(増減率)
ディーリングシステム	1,723 (50.1%)	1,828 (33.8%)	105 (6.1%)
CRM/SFAシステム	344 (10.0%)	137 (2.5%)	△207 (△60.1%)
インターネット取引システム	909 (26.5%)	2,941 (54.5%)	2,032 (223.4%)
その他	459 (13.4%)	493 (9.1%)	34 (7.5%)

ディーリングシステムは大型案件がなく、リピート案件中心の展開となったためほぼ横ばい

CRM/SFAシステムは保守中心で新規案件獲得ならず大幅減

FXシステムを中心にインターネット取引システムが絶好調

売上総利益率の増減要因



単位:百万円	2008年3月期上期 売上(利益率)	2009年3月期上期 売上(利益率)	前期比 増減(増減)
システム・インテグレーション(SI)	1,719 (40.1%)	2,047 (40.8%)	327 (0.7P)
保守	628 (63.9%)	783 (54.3%)	155 (△ 9.6P)
UMS(導入)	143 (33.2%)	1,139 (44.1%)	996 (10.9P)
UMS(サービス)	486 (58.9%)	937 (47.2%)	450 (△11.7P)
その他(物販など)	459 (15.5%)	493 (16.0%)	34 (0.5P)



前年同期に大きく上ブレした保守の利益率が例年通りの水準(55%程度)に戻る

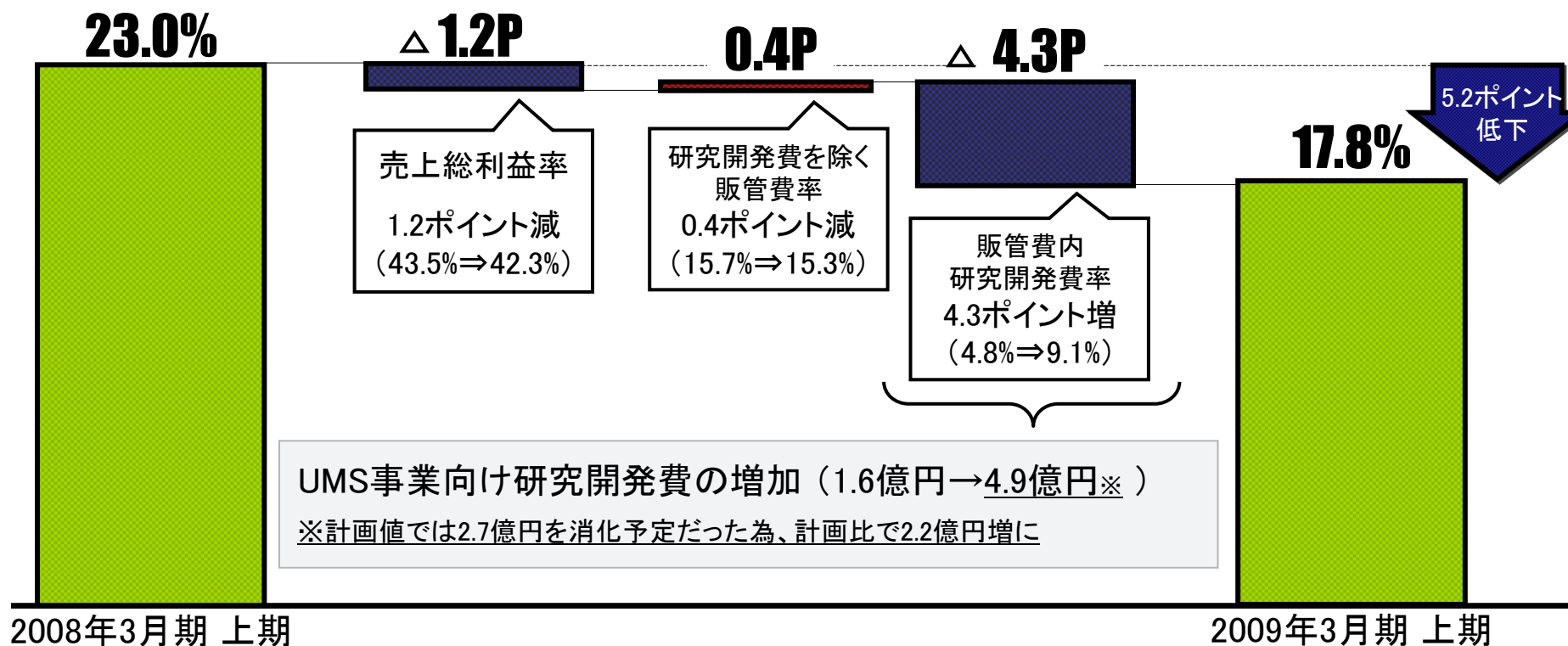


研究開発原価を販管費として計上したため、UMS(導入)は例年通りの水準(40%程度)に戻る



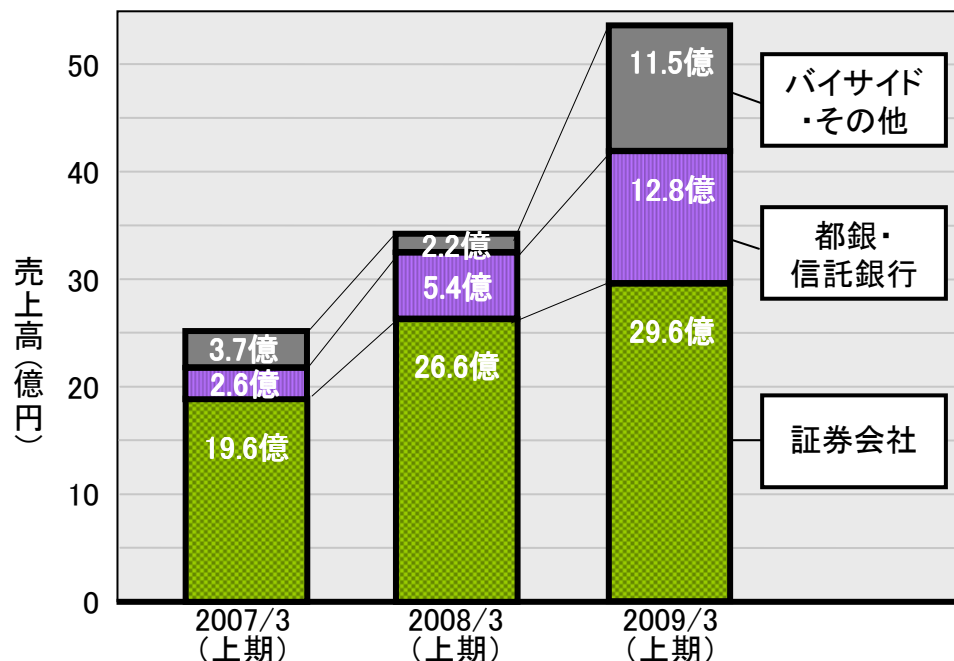
上期よりサービスインした特定案件において、立上げ時のコストが一時的に増加したため、UMS(サービス)の利益率が低下、なお下期以降は通常の水準に戻る見通し

売上高営業利益率の増減要因

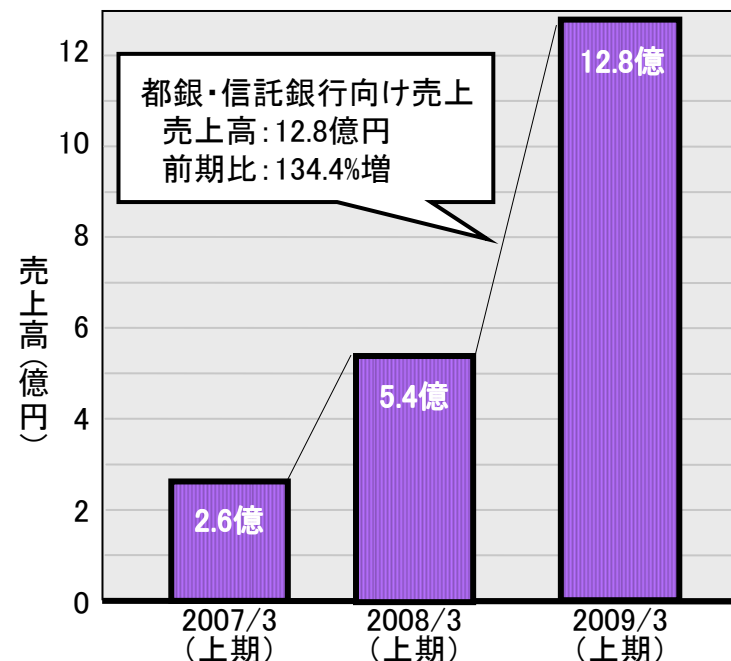


顧客セグメント別売上比率

顧客セグメント別売上の推移



都銀・信託銀行の売上推移



都銀向け売上高が大幅増 (前期同期比: 134.4%増)

デリバティブ時価評価サービスとデリバティブシステム開発案件^{※1}で数億円規模の売上を計上



バイサイド・その他向け売上高が大幅増^{※2} (前期同期比: 421.7%増)

大証FX(仮称)要件定義～設計フェーズの完了と、FXシステム開発案件で数億円規模の売上を計上

※1 2007年3月期上期に受注、当期1Qに納入しています。

※2 取引所、FX專業業者への売上は「バイサイド・その他」に分類しています。

2009年3月期上期 決算見通しのポイント(費用、配当)

自己株式の取得

ToSTNeT-3(自己株式立会外買付取引)による自己株式の買付けを実施

- 取得方法 : 2008年5月14日午前8時45分の東京証券取引所のToSTNeT-3において買付注文を実施
- 取得株式数 : 25,000株 (取得総額:1,090百万円/発行済株式数に対する割合:4.4%)

子会社の設立

米国サンフランシスコに子会社を2008年4月に設立 (費用への影響は軽微)

- 今後の海外の金融機関への営業開始に先行したマーケティング拠点
- UMS事業における新サービス開発のための研究開発拠点

採用教育

新卒入社 37名

シリコンバレーでの金融トレーニングを含む3ヶ月の集中研修を終え、2QよりOJTへ

通期決算見通し

2009年3月期決算見通し(連結)

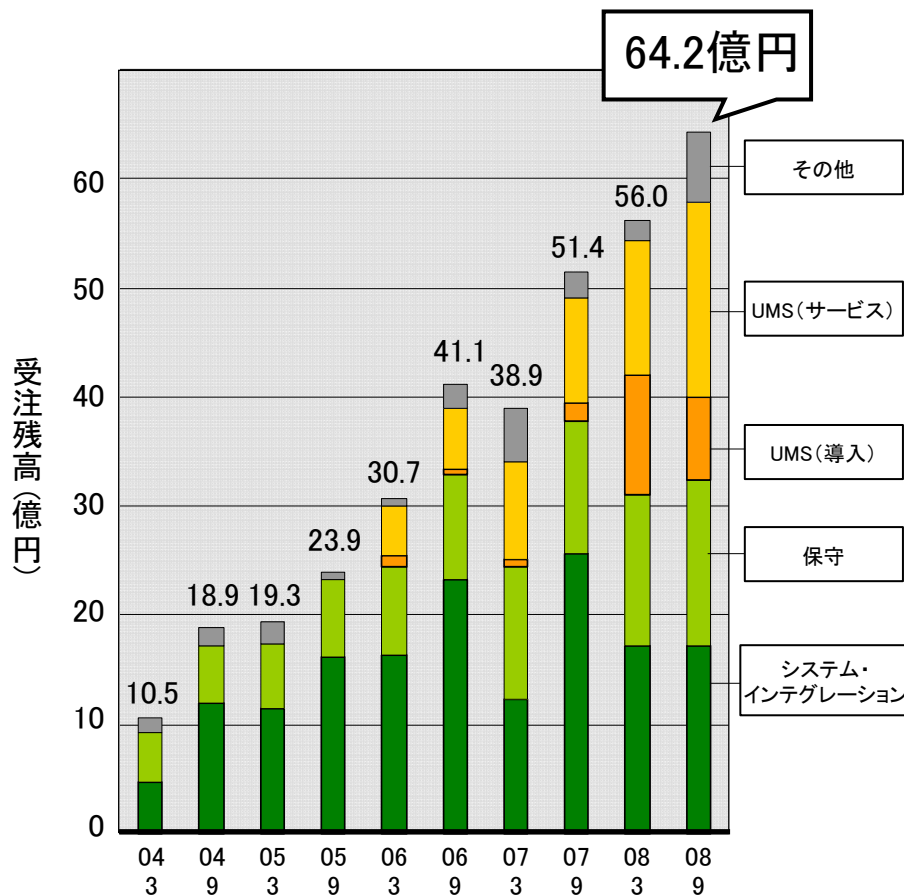
単位:百万円	2008年3月期実績	2009年3月期見通し	増減	前期比
売上高	8,128	10,500	2,371	29.2%
売上総利益(率)	3,673 (45.2%)	4,546 (43.3%)	872	23.8%
販管費(率)	1,592 (19.6%)	2,035 (19.3%)	442	27.8%
内 研究開発費(率)	364 (4.4%)	600 (5.7%)	236	64.8%
営業利益(率)	2,081 (25.6%)	2,510 (23.9%)	429	20.6%
経常利益(率)	2,074 (25.5%)	2,500 (23.8%)	425	20.5%
当期利益	1,234	1,475	240	19.4%
従業員数:期中平均	193	242	49	25.3%

※(率)は対売上比率

期初予想は据え置き

- 不透明な市場環境
- 2Qに入ってから受注スピードの減速の兆し
- 利益は、仮に売上が上振れしても積極的に先行投資を前倒しして行うため大きなブレはなし

受注残高

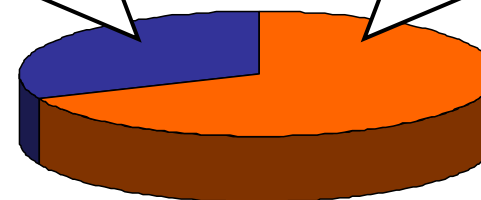


当期売上予定の受注残高を含む
上期での当期予算達成率 **93.3%**
(前年同期の予算達成率は88.0%)

通期売上予想	: 105億円	} 合計 97.9億円
上期売上	: 54.0億円	
今期売上計上分の受注残高	: 43.9億円	

2010年3月期売上計上分
20.3億円

2009年3月期売上計上分
43.9億円



UMS(サービス)を中心に、受注残高が大幅に伸びる (64.2億円: 前年同期比24.8%増)

今期分の受注残高を順調にこなせば、今期予算はほぼ達成可能な見通し

2009年3月期下期 決算見通しのポイント

事業セグメント 全体動向

SI		ディーリングシステムを中心として売上は微増	
		ディーリング	リピート案件を中心に展開
		インターネット取引	FXシステムは引き続き好調
UMS (導入)		大証FX(仮称)を含む大型案件の納入により、売上が大幅増	
		大証FX(仮称)	2009年春稼動に向け、数億円規模の売上を計上予定
		SPRINT	大証FX(仮称)対応版を開発、営業を強化
UMS (サービス)		2009年3月時点の月額売上高が2.3億円となる見通し	
		大証FX(仮称)	先行サービスの売上を下期より計上予定
		SPRINT	「SPRINT」FX対応版を三菱商事フューチャーズが採用、3Qよりサービスイン

2009年3月期下期 決算見通しのポイント(費用、配当)

費用

下期はUMS事業関連の販管費内研究開発費として1.1億円を想定（通期計画値:6億円）

- 上期に計画値を上回る4.9億円の先行投資を実施したため(計画比:2.2億円増)、下期の当該費用として1.1億円を想定
- 仮に売上が上振れした場合には、計画値を上回る先行投資を前倒しで実施する見通し

配当の実施

業績連動型、配当性向10～15%
一株あたり260円の見込み(前期210円)

自己株式の取得

自己株式の買付けを実施予定

- 取得する株式の種類: 当社普通株式
- 取得する株式の総数: 25,000株(上限)(発行済株式総数に対する割合4.5%)
- 株式の取得価額の総額: 10億円(上限)
- 取得する期間: 平成20年10月30日～平成20年12月26日

第二次中期事業計画 進捗状況

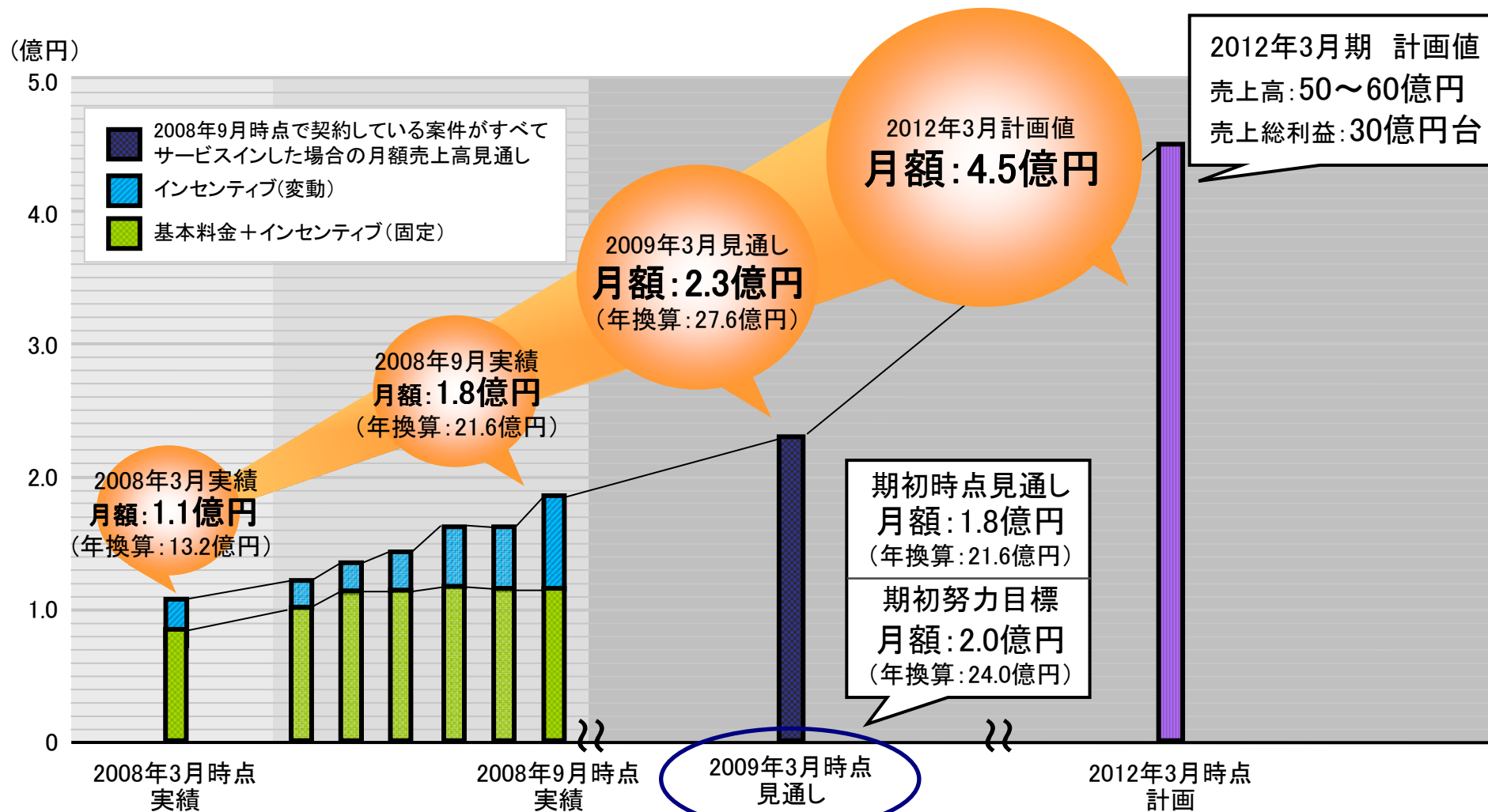
第二次中期事業計画(事業領域)



2012年3月期には両事業の売上総利益を30億円台に引き上げる
 金融フロンティア領域のユニバーサル・プレーヤーへ

SI事業とは: システム・インテグレーション(System Integration)事業の略称です。
 UMS事業とは: ユニバーサル・マーケット・サービス(Universal Market Service)事業の略称です。

UMS(サービス)月額売上高の推移

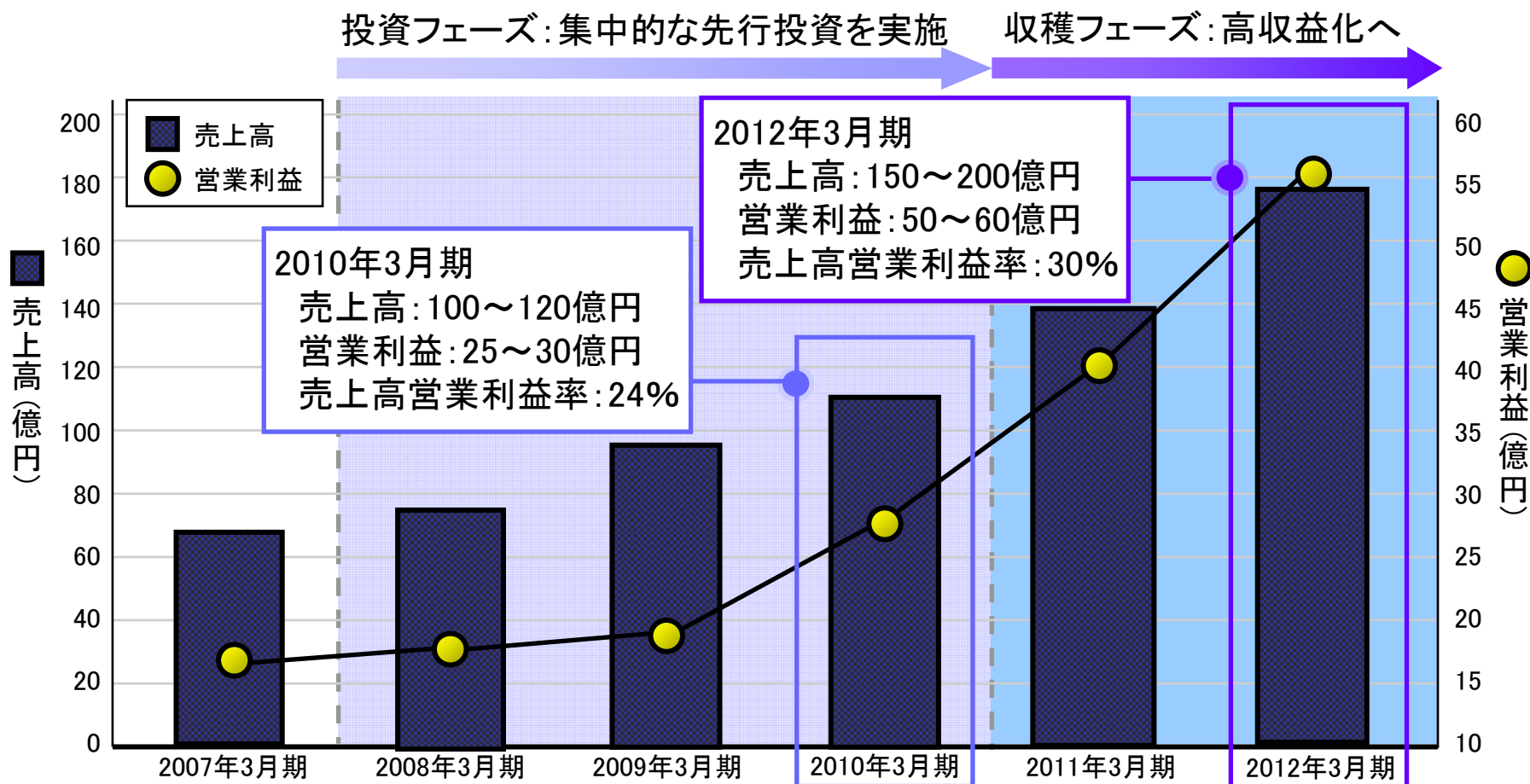


※基本料金とは、あらかじめ顧客と契約をした定額料金です。

※インセンティブとは、「手数料収入課金」などサービスを利用することによって生じる顧客の収益に連動する料金です。

※年換算値は、月額売上高の値を12倍して算出したものです。

第二次中期事業計画 概要



2010年3月期、2012年3月期の売上高・営業利益については
上限値を目標、下限値を株主の皆様に対する公約・責務(コミットメント)とする

參考資料

UMS事業「SPRINT」導入実績(導入社数:合計10社)

■「SPRINT」とは;

多彩な注文機能と分析機能を搭載した個人投資家向けインターネット取引システム
パソコンや携帯電話を利用して、豊富な金融商品を簡単・すばやく取引できる投資環境を実現

2008年10月現在

	対応商品					債券
	株式 (現物・信用)	先物・オプション	FX			
			OTC対応※1	くりっく365対応※2	大証FX(仮称)対応※3	
SPRINT Pro スプリント・プロ  リッチクライアント※4 PC版	オリックス証券 ジョインベスト証券 松井証券 先物系証券会社1社	オリックス証券 ジョインベスト証券 松井証券 先物系証券会社1社	ソニー銀行 マネーパートナーズ 三菱商事フューチャー ズ証券(導入中)	△	コスモ証券(導入中)	△
SPRINT Mobile スプリント・モバイル  リッチクライアント 携帯電話版	オリックス証券 ジョインベスト証券 松井証券 先物系証券会社1社	オリックス証券 松井証券 先物系証券会社1社	ジョインベスト証券 ソニー銀行 マネックスFX マネーパートナーズ 三菱商事フューチャー ズ証券(導入中)	△	△	△
SPRINT Basic スプリント・ベーシック   ウェブブラウザ版	△	ジョインベスト証券	スター為替 ソニー銀行 三菱商事フューチャー ズ証券(導入中) 大手ネット專業証券1社	スター為替	コスモ証券(導入中)	オリックス証券

※1 ウェブブラウザ専用のOTC対応版は、上記金融機関のほか、SI事業として大和証券、ひまわり証券、マネーパートナーズに納入しております。

※2 ウェブブラウザ専用のくりっく365対応版は、上記金融機関のほか、SI事業としてコスモ証券、ユニマツ山丸証券に納入しております。

※3 大証FX(仮称)対応版は、2009年春よりサービス展開予定です。

※4 リッチクライアントとは、専用のソフトウェアをダウンロードすることで高い操作性・表現力・機能性を実現するアプリケーションの総称です。

△...今後対応予定の商品・チャネル